とわの浦

とわの浦には神様がいるらしい――

第75回新人コミック大賞入選作!! 審査員高評価続出の話題作、来たれり。

海辺に、おんながひとり――

新コミ入選作!
俊英読切
39P!

とわの浦

不思議でこわく、あたたかい。
これは、神様と私たちの物語。

生まれた、才能という宝物。

黒江ゆき

津田康庵の器を使いたいんだ。

津田康庵の全

津田康庵ってあのですか。無茶言わないでください、予算も時間もありません。

僕がなんとかするよ。

いや、無理だと思いますよ。

何故？

この陶芸家、最近依頼を全部断っているとか聞きますよ。

へえ。

なんでも、大病を患っているとか呪いを受けてるとか、妙な噂が飛び交ってるようですが。
おもしろいじゃないか。

そんなやつが再び作り上げるものがどんなものか、見てみたくないかね。

いつまで経っても完成させることが出来ない。

あの話を聞いたときから。

君、四代目
津田康庵？
はい…そうですがどちら様でしょう。
僕は日限。『隠れ蓑』って知ってるかい。
え…あの映画のですか？
あれ作ったの僕だよ。映画監督の日限 直だ。
えっ…
次作で骨董をモチーフにした話を作っていてね、
作中で重要な役割を果たす器を、どうしても君に作ってもらいたいんだ。

申し訳ないのですが、今、注文はすべてお断りしているのです。
なんて？

全く作れなくなってしまったんです。

へえ。当代一の天才陶工にもスランプなんてあるのかね。

君、今朝そこの海で泳いでいただろう、こんな時期に何やってたんだ。
スランプを苦に入水自殺でもするつもりだったか。
違います。
事情を少し話してくれてもいいだろう。

あそこは「とわの浦」といいましてね。
昔から「永遠の神様」が棲んでいるという言い伝えがあるんです。

一年前、先代である父が亡くなる前にこんな話をしました。
私はね、昔とわの浦で神様を見たんだ。
全身鈴に覆われた神々が行列を成して、浦へ流れ歩いて消えて行ったよ。
あんなに美しく恐ろしいものは見たことがない。
私はきっとあんなものが作りたかったんだ。
もう、生きている間には無理なようだがね。
死ぬ間際の父が目を輝かせて話していた「何よりも美しいもの」を、
私も見たい。
その日から、

作るものの完成が
分からなくなって
しまったのです。

止まらなくなるのです。

父が見たという神様が見られれば、

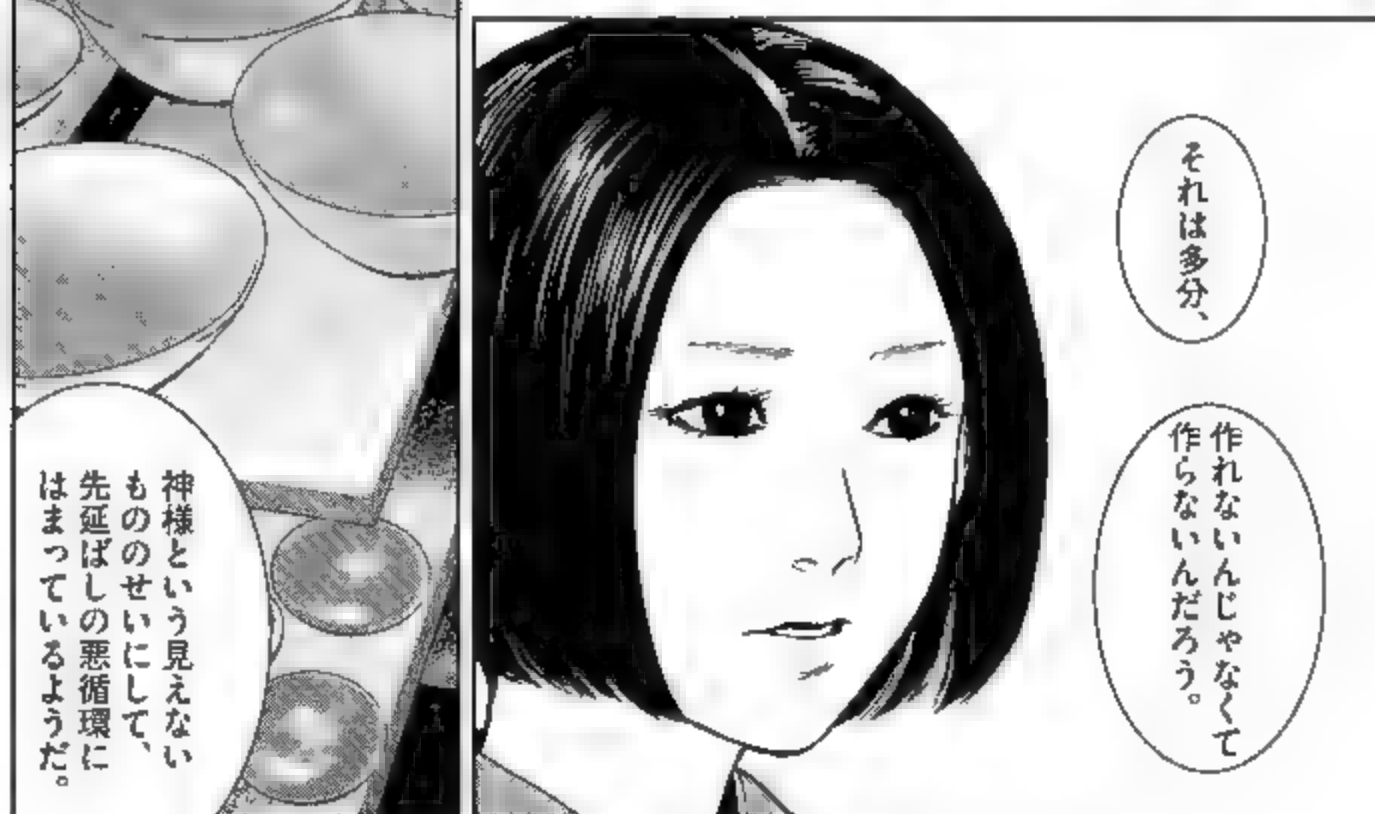
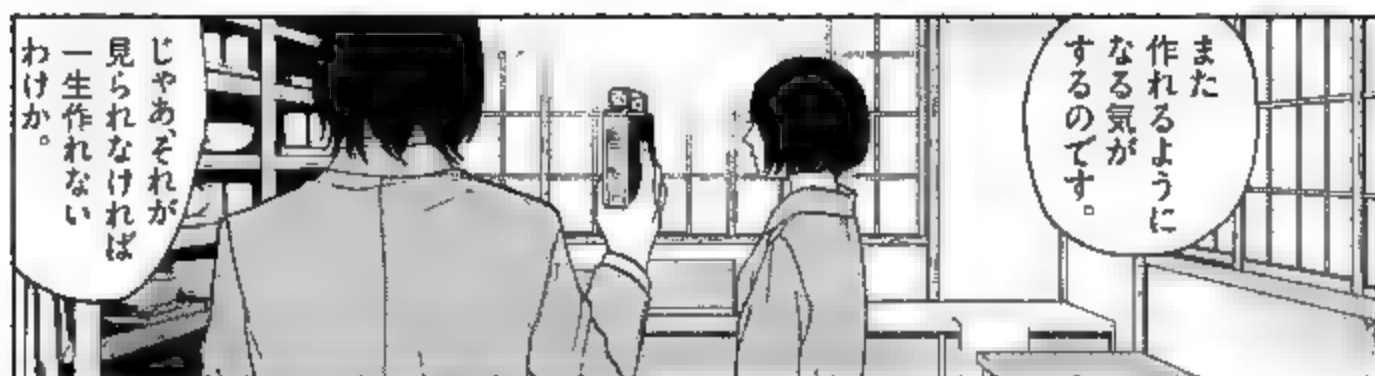
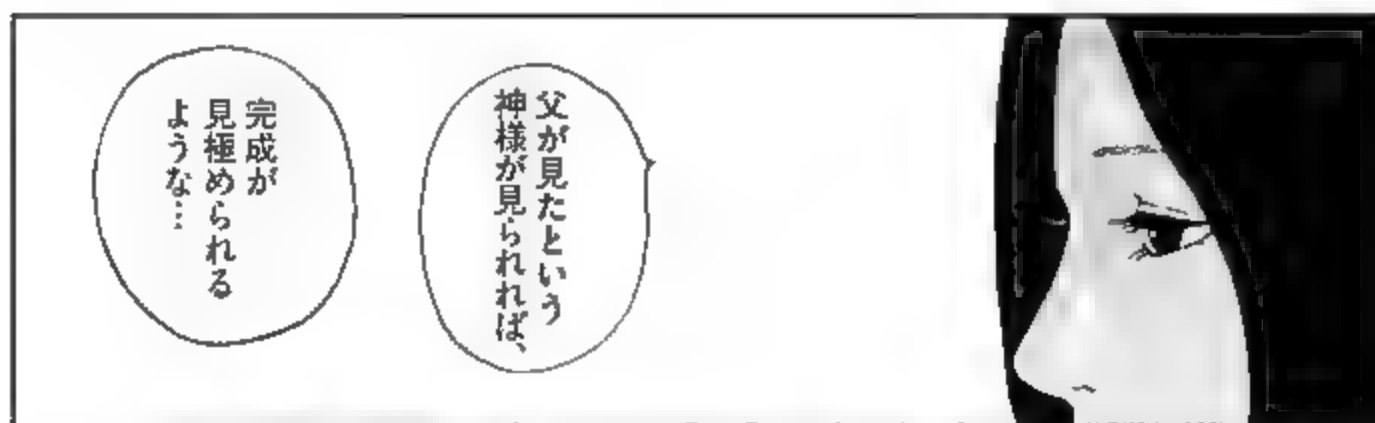
完成が見極められるような…

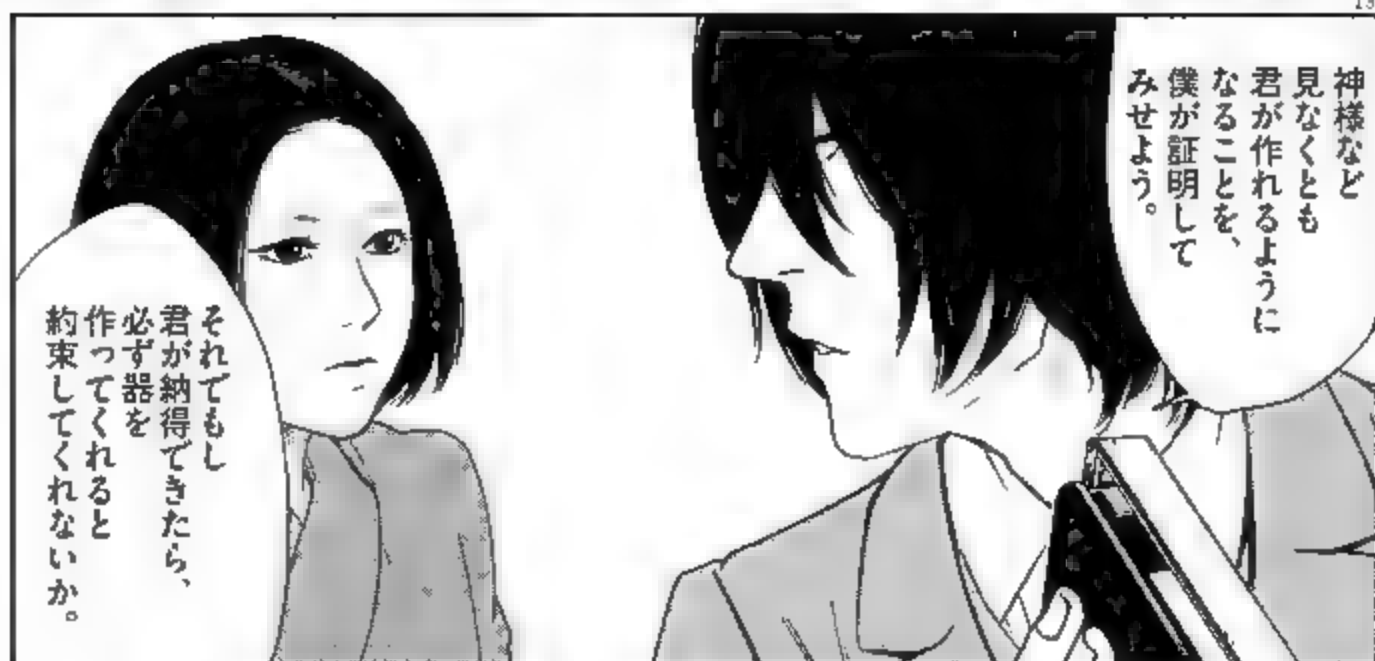
また作れるようになる気がするのです。
じゃあ、それが見られなければ一生作れないわけか。

陶芸家としては終わりが見えてるな。
はは。

完璧を目指すあまり、理想に囚われてはいまいか？
神様という見えないもののせいにして、先延ばしの悪循環にはまっているようだ。

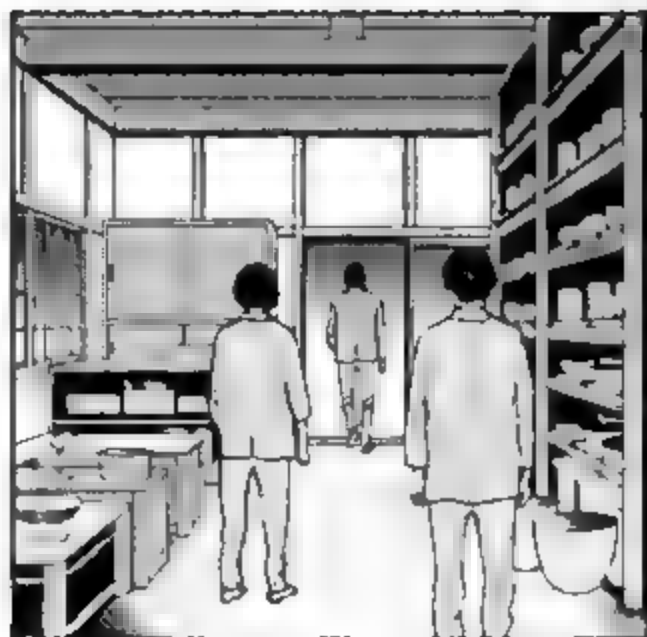
それは多分、
作れないんじゃなくて作らないんだろう。

君は君以外の何者にもなれんというのに。

完璧なものを望んでなにが悪いのです。
ダッ

あなたは妥協していると言うのですか？
いや、違うね。僕だって完璧なものを作りたいから、君の器が欲しいのだ。

神様など見なくとも君が作れるようになることを、僕が証明してみせよう。
それでももし君が納得できたら、必ず器を作ってくれると約束してくれないか。

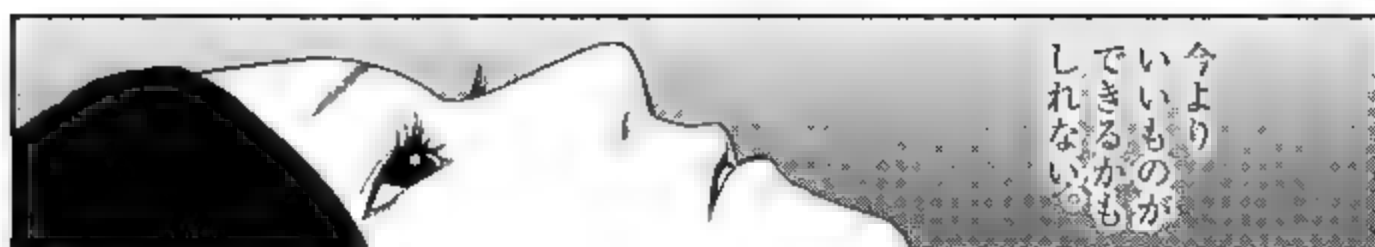
それまでに
見れるといいがね、
神様が。

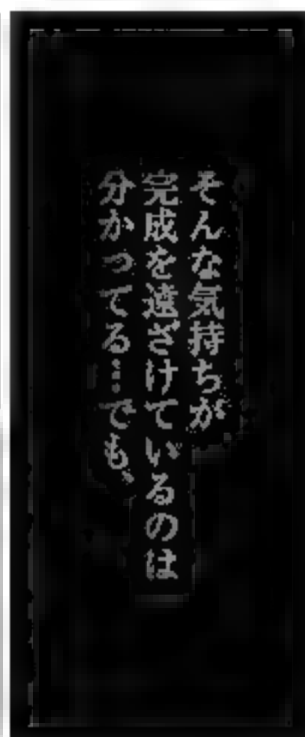
……

日限さん。

あれ、帰ったんじゃなかったんですか。
大事な用事がまだ終わってなくてね。

さっき言ってた「証明」ってどうするつもりですか。
キヨさんは頑なですから、どうやっても無理だと思いますよ。
いや、実は器ももちろんだがそれより彼女自身に興味があってね。
へっ。

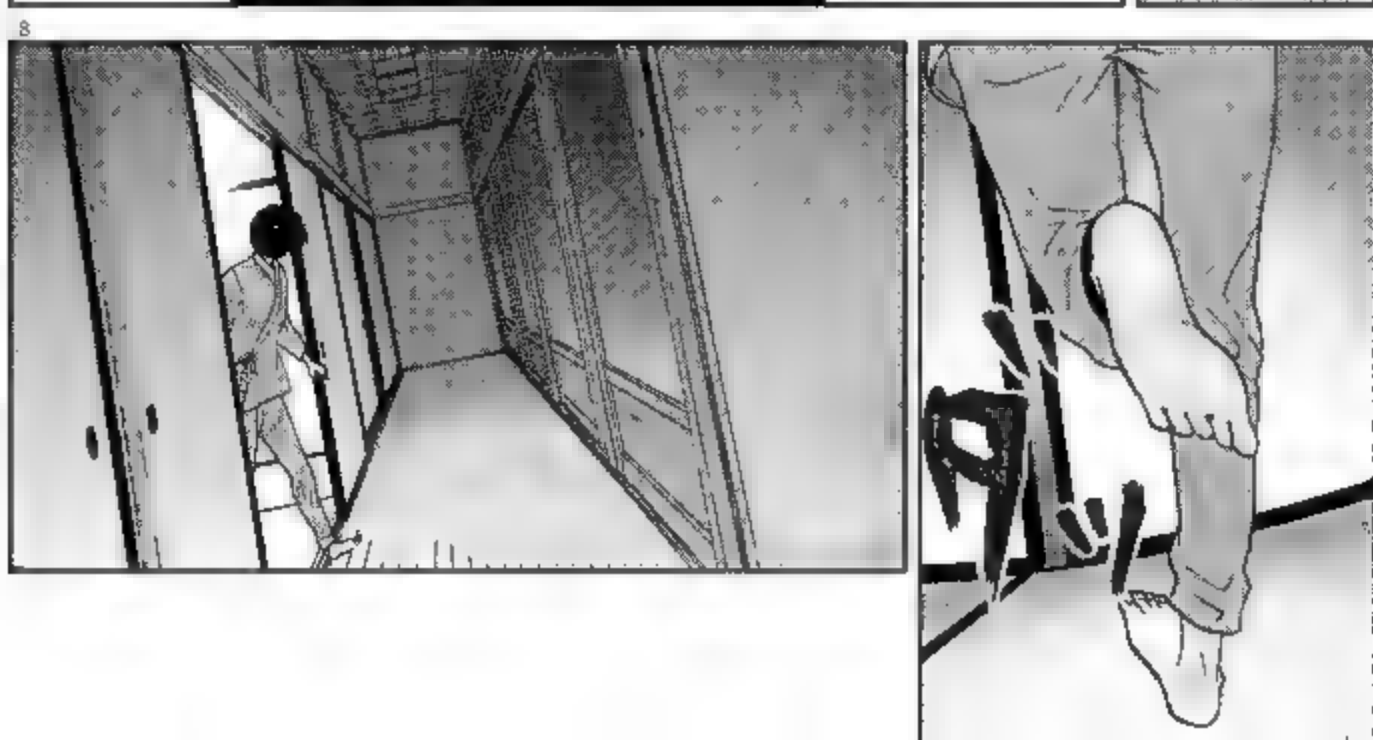
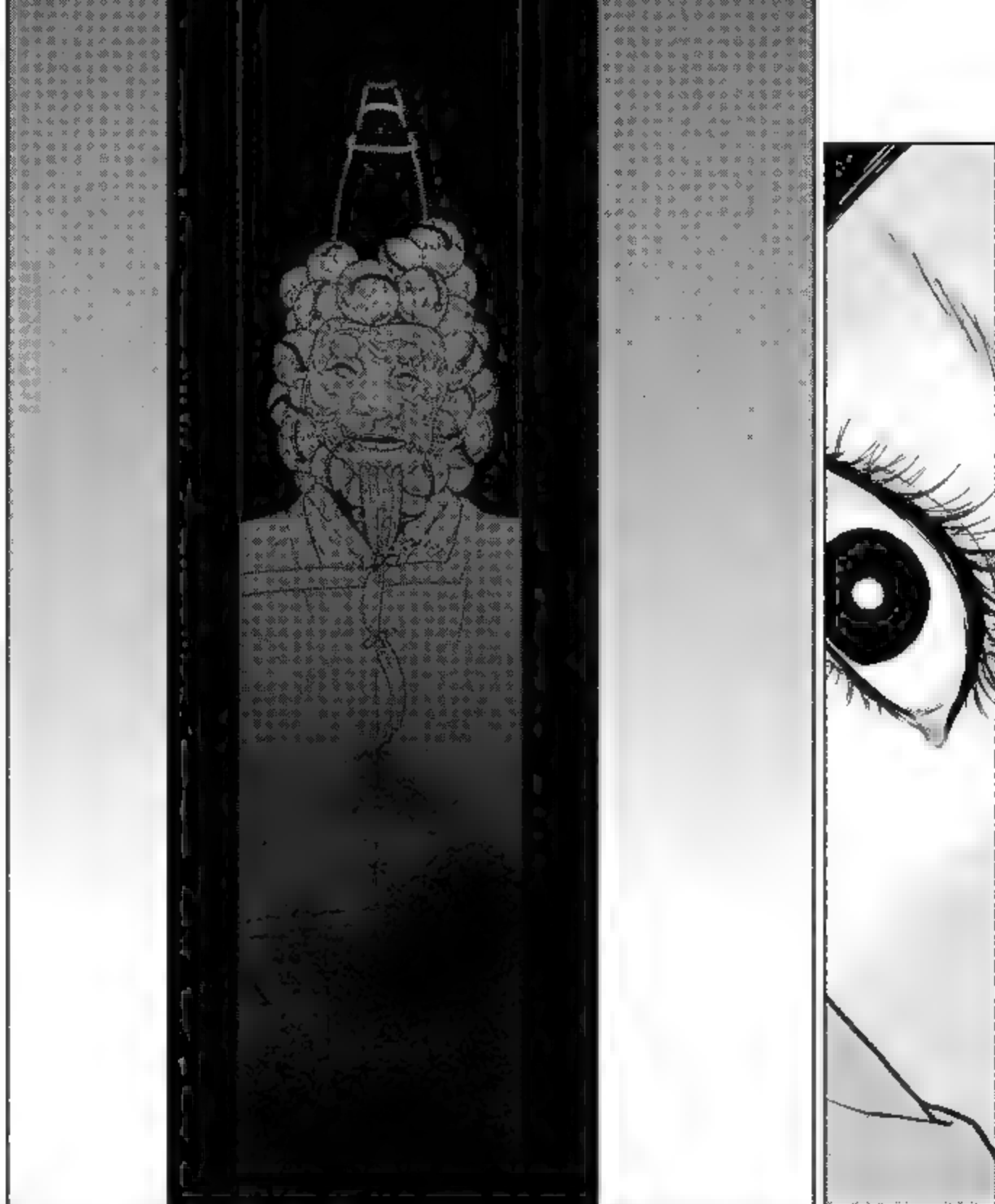
何言ってるんですか。今大変な時期なんですよ、変なちょっかい出さないでくださいよ…
落ち着け弟子くん、勘違いするな。
誤解です。

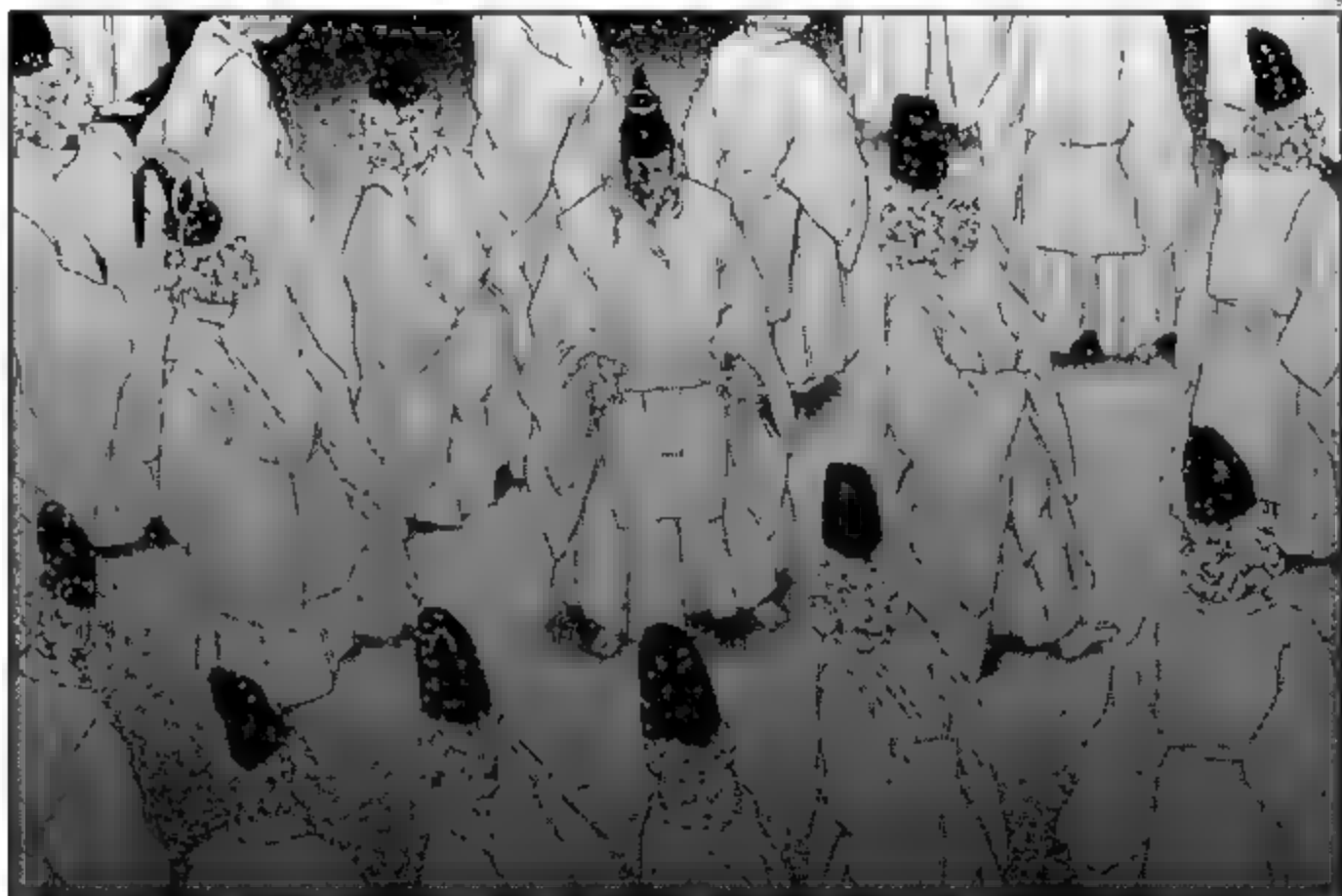
僕は八方塞がりなキヨさんの行く末を気にかけているんだ。君も師匠に立ち直って欲しいのだろう。
さっき言っていた証明とは、彼女を立ち直らせるための強行策なんだよ」
え…本当ですか。

君にも一つ協力して貰いたいんだが。

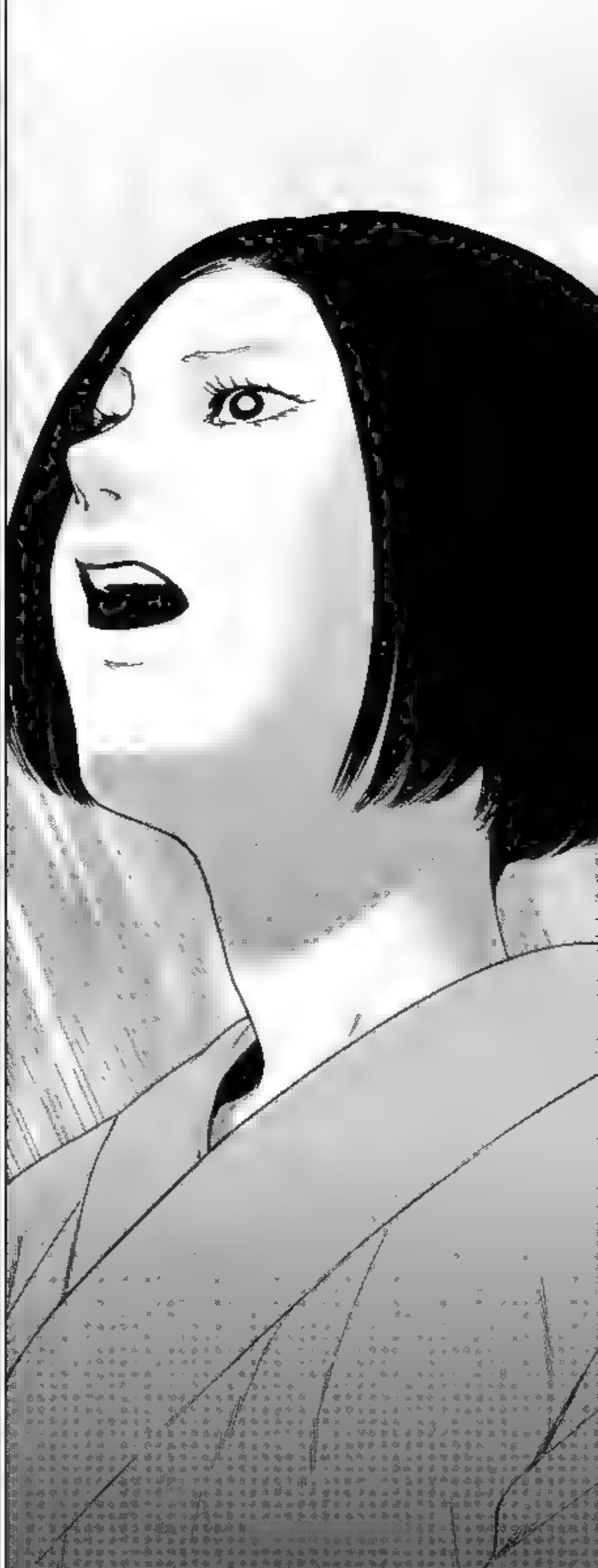
明日になれば、
何かを知れば、
神様を見れば、

こどものころみたいに、
明日に希望しかなかった
時間に戻りたい
だけかもしれない。

完璧を
目指すあまり、
理想に
囚われては
いまいか？
自分の限界を
認めたくない
だけかもしれません。

でも日限さん、私は……
全部何もかも
作りきって
しまったのです。
今の私の中には
何もない。

これからもずっと
誰も創造できないものを
作らねばいけないのに、
この連鎖から
抜け出すことが
できないのです。
助けて。

見間違いか…

「全身 鈴に覆われた神々が行列を成して、浦へ流れ歩いて消えて行ったよ」

はぁ、
はぁ、
待って。
あの先は
とわの浦だわ。

見れる。
はぁ。
私の想像を、
はぁ。
越えるものが。

日限さん…
!
うまくいきましたね。
案内ご苦労さん。
師匠を見たまえ、さぞ本物の神様だと信じ込んでいることだろう。
すごい、こんな何もない所にどうやって…
霧だよ。
この時期この時間にだけ水面上に立ち上る霧に、あらかじめ撮っておいた動画を投影してるんだよ。

でも…こんなことでキヨさんは本当にスランプが直るんでしょうか。

まさか君まで本当に神様が見れると思っているのか。
存在しないものが見たいというなら、偽物でも見せてしまうしかないだろう。

アレを本物と信じてスランプが直れば恰もよし。
たとえ直らなくても神様のせいでこうなったんじゃないと、思い込みが解ければ現実と向き合うだろう。

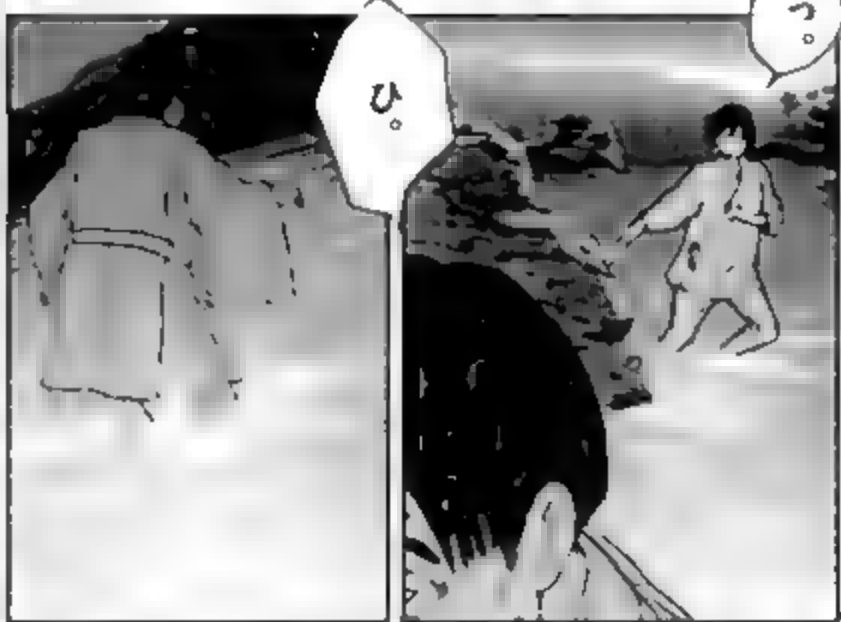
どちらにせよ、器を作ってもらうには後々本人にばらさなくてはならんがね。
え、

日限さん、こんな騙すような真似ちょっと強引すぎませんか。キヨさんを傷付けるようなことしたら、僕 許さないっすよ。
ザバ
ザバ
やめたまえ。

おわっ、
うわわ。

えっ!?
バッシャアア

くそっ、
失敗だ……
あっ。
ひ。
待ちなさい。

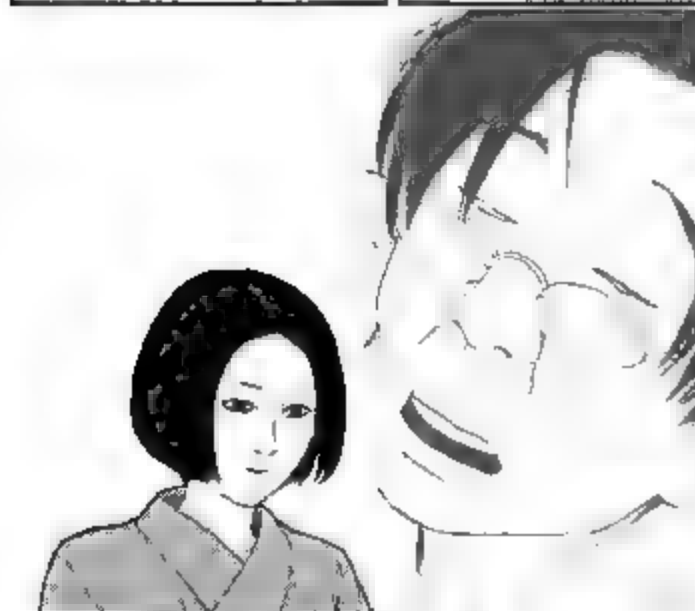
清吾っ・・・!
ごめんなさい・・・

なにやってるんですか……
これ、どういうことか説明してください…
落ちついてください。

はっ。

日限さん、いるんでしょう…!

どこですかっ。
ガサ

日限さん…!!

全部
日限さんが
仕組んだ芝居
だった…と。
すみません
でした。
キヨさんの助けに
ならないかと
思って…
それで
当の本人は？
色々
面倒だから
逃げる…と。
なんて
無責任な。
それにしても
よくあんな大人数
集めましたね。
え、
協力したの
僕だけですよ。
いつまで嘘を
ついてるんですか、
たいした芝居も
できないのに。
あっははは。
途中まで
信じ込んで
いたじゃ
ないですか。

でも、キヨさんの笑顔久々に見れてよかったっす。

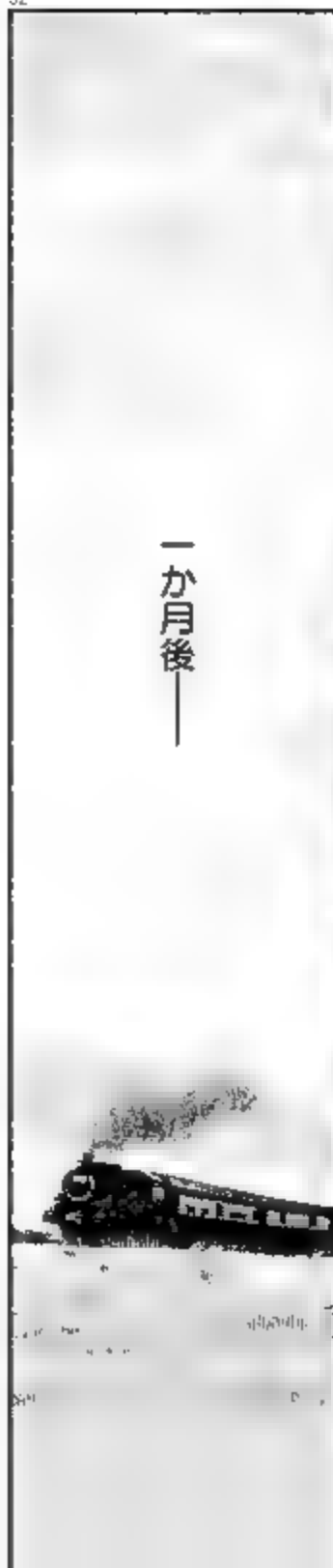
ありがとう。

日限さんの計画は失敗した。
でも…

偽物だったけど、きれいだった。

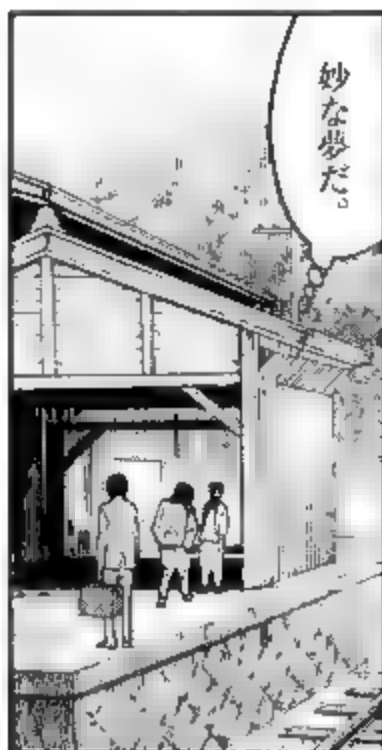
あの人みたいに想像を越えるものを人は作れるってことを思い出したわ。

パチ
パチ

一か月後――

日限監督が
行方不明に
なったらしい。
なんでも、次作の
シナリオが作れずに
逃げ出したそうだ
体どこに
いったんでしょうね
とわの謎だよ。
はっ
ガタン
ガタン
……
妙な夢だ。
お久しぶりです。

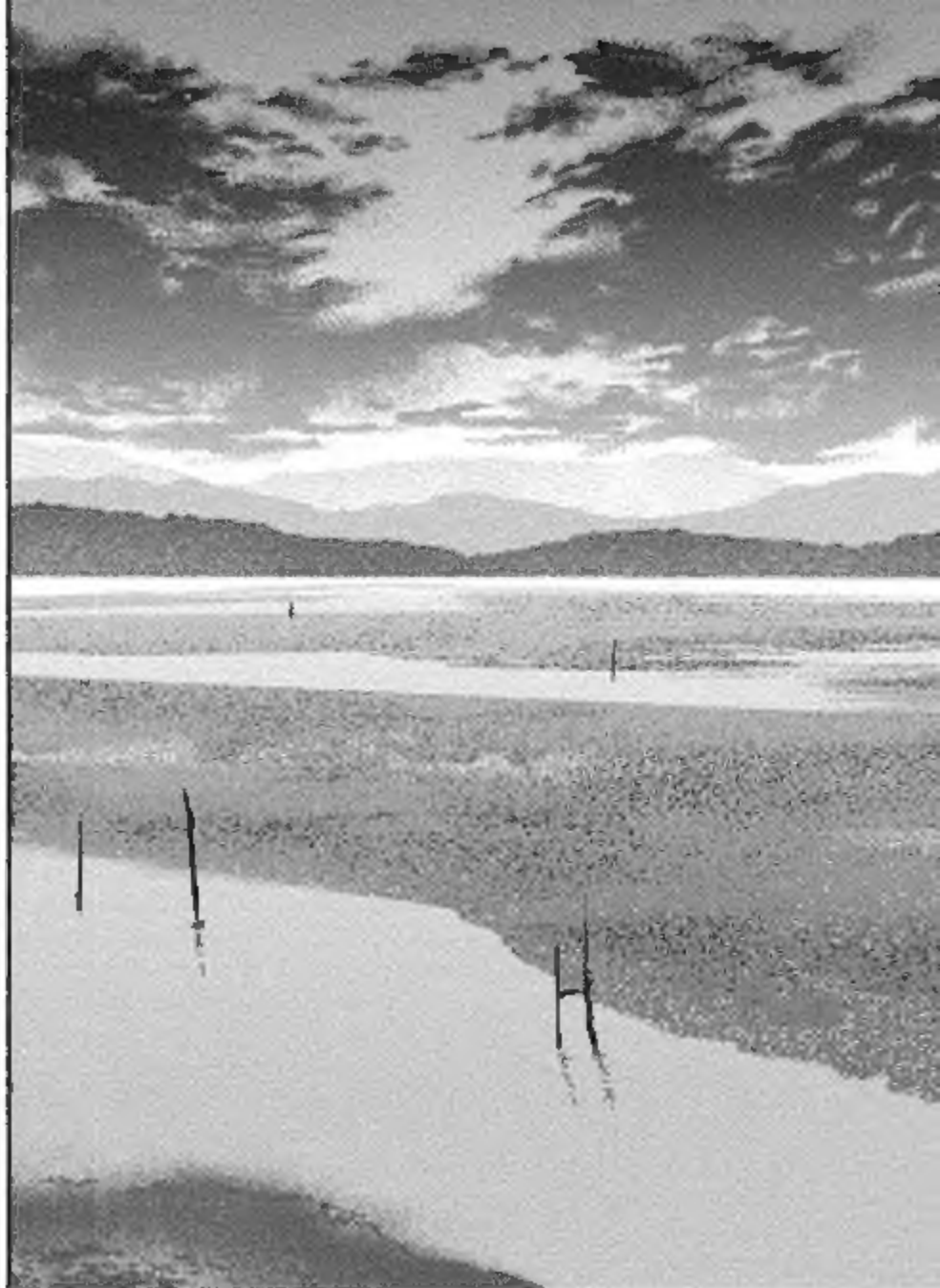
お待ちしておりました。

そっちから呼び出されるとはね、ちゃんと完成しているんだろうな。
もちろんですよ。

て、なんでスランプ直ったんだい。まさか本当にあれが?
それは後ほど。どうぞお開けください。

黒楽茶碗「永夜」です。

これはまた予想外の入眼だな。
あなたの「神様」のおかげで吹っ切れました。
ありがとう。

結局、先代の見た神様とはなんだったのだろう。
ザ
ザ…

本当にいるのなら、僕だって見てみたいがね。
私、今でも本当にいると信じているのですよ。

「完璧なもの」になりたかったのは私自身だったと、あの夜ここで気がつきました。

自分の可能性を
信じていた
はずが…
いつの間にか、

手の届かない
はるか遠くのものを
作ろうとして
いたのです。

それは
終わりのない
道だったの
でしょう。

そんな…
人の欲望に
巣食う魔物
のような、
神様が
ここには
いる気が
するのです。

ものを作る
あなたになら、

わかるでしょう？

貴女にも見えましたか？　とわの浦の神様が――――
黒江ゆき氏は次回作を構想中。どうぞお楽しみに。

―完―